

## 平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年10月30日

上場会社名 株式会社 ナナオ

上場取引所 東

コード番号 6737 URL <http://www.eizo.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 実盛 祥隆

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理部長

(氏名) 秋常 樹一郎

四半期報告書提出予定日 平成21年11月12日

配当支払開始予定日

TEL 076-275-4121

平成21年11月30日

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	36,480	△13.0	4,045	△14.2	4,162	△11.5	2,523	6.2
21年3月期第2四半期	41,909	—	4,715	—	4,701	—	2,376	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	113.04	—
21年3月期第2四半期	105.87	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	70,367	53,477	76.0	2,395.80
21年3月期	65,620	50,689	77.2	2,270.88

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 53,477百万円 21年3月期 50,689百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	40.00	—	30.00	70.00
22年3月期	—	25.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	25.00	50.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	75,000	0.6	6,800	58.1	6,900	62.6	4,200	515.8	188.16

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
新規 一社 (社名 ) 除外 一社 (社名 )

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご参照ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご参照ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第2四半期 22,731,160株 21年3月期 22,731,160株

② 期末自己株式数 22年3月期第2四半期 409,934株 21年3月期 409,884株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第2四半期 22,321,252株 21年3月期第2四半期 22,442,773株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、上記予想に関する事項は、4ページ【連結業績予想に関する定性的情報】をご覧ください。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、景気の悪化に底打ちの兆しが見られたものの、欧州、国内ともに設備投資の落ち込み、雇用情勢の悪化、及びそれらに伴う消費の低迷等により依然として厳しい状況が続いております。

このような状況下、アミューズメント用モニターについては、当期の第1四半期より販売を開始した機種が、第2四半期に入っても順調に推移しました。しかしながら、コンピュータ用モニターについては、前期末からの流通在庫の調整はほぼ終了したものの、設備投資の低迷により、国内外ともに販売が低調に推移しました。この結果、連結売上高は36,480百万円(前年同期比13.0%減)となりました。

利益面については、人件費、広告宣伝費を中心としたあらゆる不要不急経費の削減、及びのれん償却の減少に伴い販売費及び一般管理費が減少したものの、コンピュータ用モニターが減収となったことにより、営業利益は4,045百万円(同14.2%減)、経常利益は4,162百万円(同11.5%減)となりました。一方、四半期純利益は2,523百万円(同6.2%増)となりました。これは、前期において投資有価証券評価損403百万円を特別損失に計上したことに加え、繰延税金資産に係る評価性引当額の増加により税負担率が上昇しましたが、当期においては同評価性引当額の減少により税負担率が下がったことによります。

主要な製品別売上高の状況は以下のとおりです。

[コンピュータ用モニター]

前年同期比30.4%減の16,326百万円となりました。医療市場向けモニターにおいては内視鏡画像表示に適した製品や次世代の映像入力端子を装備した製品を販売開始する等使用領域の拡大に努めてまいりました。しかしながら、前期まで好調であった診療報酬制度の改定に伴う国内需要が一巡し、また国内外で景気低迷の影響を受け、販売は低調に推移しました。

グラフィックス市場向けモニターでは、印刷・広告関連産業の設備投資が大きく落ち込んだ影響から販売は低調に推移しました。

またそのほかに、FlexScanシリーズでは環境に配慮した製品を投入する等販売の拡大に努め、エンターテインメント液晶モニター(FORISブランド)では、新機種を国内外で販売しました。しかしながら、景気の低迷による設備投資の減少の影響を受け、販売は低調に推移しました。

[アミューズメント用モニター]

当期の第1四半期に販売を開始した機種が、第2四半期に入っても順調に推移したことにより、16,977百万円(前年同期比12.8%増)となりました。

(ご参考) 販売の状況

販売実績を品目別に示すと、次のとおりです。

品目	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)		増減 金額(百万円)
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	
コンピュータ用モニター	23,471	56.0	16,326	44.8	△7,145
アミューズメント用モニター	15,048	35.9	16,977	46.5	1,929
その他	3,389	8.1	3,176	8.7	△213
合計	41,909	100.0	36,480	100.0	△5,429

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末における資産及び負債の状況は、前連結会計年度末との比較では、主にたな卸資産や有形固定資産が減少しましたが、現金及び預金、有価証券、投資有価証券等が増加したことにより、資産の部は4,747百万円増加し、70,367百万円となりました。

負債の部は、主に賞与引当金や製品保証引当金が減少しましたが、買掛金や未払法人税等が増加したことにより、1,958百万円増加し16,890百万円となりました。純資産の部は、四半期純利益を計上したことに加え、その他有価証券評価差額金の増加等により2,788百万円増加し、53,477百万円となりました。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

コンピュータ用モニターは、海外における流通在庫の調整が当第2四半期連結累計期間にはほぼ終了しましたが、本格的な需要の回復には至らず、販売は低調に推移しました。下期においても景気は先行き不透明な状況が続き、全体として、需要は低い水準に留まることが予想されます。

アミューズメント用モニターは、当市場は厳しい環境下にはありますが、当第2四半期連結累計期間において、新機種の販売が当初計画を上回って推移しました。下期においても計画どおり推移する見込みであり、通期での販売は当初計画を上回る見通しであります。

以上の状況から、通期の売上見通しにつきましては、コンピュータ用モニターの売上高は前期比13.9%減の36,200百万円、アミューズメント用モニターの売上高は同24.2%増の32,300百万円、その他の売上高は同0.4%増の6,500百万円を予想しております。

費用面におきましては、研究開発については将来に向けた投資を継続いたしますが、各業務プロセスの効率・生産性の向上を推し進め、販売費及び一般管理費では前期比9.3%減の13,800百万円を見込んでおります。

以上の見通しを踏まえ、平成21年5月13日の前期決算発表時に公表した平成22年3月期の業績予想を修正し、連結売上高は前期比0.6%増の75,000百万円、営業利益は同58.1%増の6,800百万円、経常利益は同62.6%増の6,900百万円、当期純利益は同515.8%増の4,200百万円を予想しております。

なお、当該予想は現時点で得られた情報に基づいて算定しており、多分に不確実な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績は、業況の変化などにより業績予想と乖離する結果になりうることをご承知おき下さい。

## 4. その他

### (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### ①簡便な会計処理の適用

##### ・一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度決算において算定した貸倒実績率等の合理的な基準を使用して一般債権の貸倒見積高を算定しております。

#### ②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

受注制作のソフトウェアに係る収益計上基準の変更

受注制作のソフトウェアに係る収益の計上基準については、従来、完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を第1四半期連結会計期間より適用し、第1四半期連結会計期間に着手したソフトウェア受注制作請負契約から、当第2四半期連結累計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められるソフトウェア受注制作請負契約については進行基準(進捗率の見積りは原価比例法)を、その他のソフトウェア受注制作請負契約については完成基準を適用しております。

当第2四半期連結累計期間において、進行基準を適用すべき契約はなく、全て完成基準を適用しているため、当該変更による損益に与える影響はありません。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,347	3,488
受取手形及び売掛金	10,402	10,746
有価証券	16,299	8,497
商品及び製品	3,337	3,403
仕掛品	3,027	2,330
原材料及び貯蔵品	6,418	10,582
その他	2,538	2,940
貸倒引当金	△190	△211
流動資産合計	46,181	41,777
固定資産		
有形固定資産	10,363	10,898
無形固定資産		
のれん	1,649	1,727
その他	712	772
無形固定資産合計	2,361	2,499
投資その他の資産		
投資有価証券	10,190	8,782
その他	1,270	2,091
貸倒引当金	—	△429
投資その他の資産合計	11,461	10,444
固定資産合計	24,186	23,843
資産合計	70,367	65,620
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	8,084	7,369
未払法人税等	1,160	395
賞与引当金	965	1,084
役員賞与引当金	35	—
ソフトウェア受注損失引当金	151	105
製品保証引当金	918	1,046
その他	1,904	1,852
流動負債合計	13,219	11,853
固定負債		
退職給付引当金	1,991	1,954
役員退職慰労引当金	105	105
リサイクル費用引当金	1,025	962
その他	547	56
固定負債合計	3,670	3,078
負債合計	16,890	14,931

(単位:百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,425	4,425
資本剰余金	4,313	4,313
利益剰余金	44,337	42,484
自己株式	△999	△998
株主資本合計	52,078	50,224
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,663	1,806
為替換算調整勘定	△1,264	△1,342
評価・換算差額等合計	1,398	464
純資産合計	53,477	50,689
負債純資産合計	70,367	65,620

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	41,909	36,480
売上原価	29,429	26,010
売上総利益	12,480	10,469
販売費及び一般管理費	7,765	6,423
営業利益	4,715	4,045
営業外収益		
受取利息	45	24
受取配当金	96	111
為替差益	—	1
その他	42	58
営業外収益合計	184	195
営業外費用		
為替差損	160	—
売上割引	32	68
その他	5	9
営業外費用合計	198	77
経常利益	4,701	4,162
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	32
投資有価証券売却益	—	18
特別利益合計	—	51
特別損失		
固定資産除却損	17	47
投資有価証券評価損	403	—
減損損失	—	46
特別損失合計	421	94
税金等調整前四半期純利益	4,280	4,120
法人税、住民税及び事業税	1,810	1,068
法人税等調整額	94	528
法人税等合計	1,904	1,596
四半期純利益	2,376	2,523



## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,280	4,120
減価償却費	1,037	843
のれん償却額	236	103
引当金の増減額(△は減少)	△25	△104
売上債権の増減額(△は増加)	△3,374	343
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,180	3,538
仕入債務の増減額(△は減少)	2,797	710
その他	287	△46
小計	3,058	9,508
利息及び配当金の受取額	139	134
法人税等の支払額	△2,145	△276
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,051	9,366
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△905	△323
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△2,778	△5,411
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	2,581	5,161
その他	△190	222
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,293	△351
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△997	△0
配当金の支払額	△908	△668
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,905	△668
現金及び現金同等物に係る換算差額	△46	13
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,193	8,359
現金及び現金同等物の期首残高	13,108	9,887
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,914	18,247

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。